※1
幼小通信「３分くらいで読める遊びの話」　2024年6月28日(金)　山形県教育委員会　vol.0002

3分くらいで読める遊びの話

環境が基本

自ら育ち合う子供

３歳児５月「ぼくはゴミ収集車」

ヒュ～
(魔女のイメージ)

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

ごみしゅうしゅう

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

①運搬中A児は飼育ケースをひっくり返してしまいます。片付けながらA児たちは様々なイメージを湧かせています。

②散らかしたの土を塵取に集め、泥場に捨てに行ったA児は、そこに落ちていた土の塊に興味をもったようです。A児は、道具コーナーからトングを持ち出すと「ごみしゅうしゅうしゃ」と言いながら「塊集め」に夢中になっていきました。

これも、石みたい

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

環境とは？

③トング以外の道具も色々試したA児でしたが、やっぱりトングが一番しっくりきたようです。お気に入りの道具を使ってそこら中の「塊」を集めます。先生をわざわざ迎えに行くと、満足気に一部始終の紹介が始まりました。

④塊集めの面白そうな雰囲気に惹かれたB児がペットボトルで水を持ち込むと「水はだめ、これはごみしゅうしゅうしゃ！」とA児は強く拒みました。「自分で見つけたことを十分に楽しみながら心が安定していくように」と願っていた先生は「Bさんはこっちで混ぜ混ぜしてみる？」と大きなタライを提案しました。タライを一緒に運ぶと、土と水の混ざり方をB児なりに楽しみます。塊集めをしながらB児の遊びが少し気になっていたA児。その様子に気づいた先生がA児にも同じタライを準備すると、水を入れてはかき混ぜてを、２人それぞれ、何度も何度も繰り返していました。
　B児は泥水特有の泡立ちが気に入った様子で、シャベルでゆっくりかき混ぜながら泡の動きをじっと見つめていました。

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

ー　遊びのはじまり　ー

　登園するとA児は飼育ケースを急に運び始めます。中にはA児が発見したカタツムリがいるのです。先生は昨日までの様子も含めA児の行為の意味を探りました。そして「園庭の『土』を飼育ケースにもっと足そうとしているのかな」と察しました。今にも飼育ケースごと転んでしまいそうになりながら、まるで冒険にでも行くかのような必死な面持ちで運ぶA児。先生は、他児の朝支度のお世話をしながらも、心の内はA児と同じわくわくドキドキ。数m先までの遥かな運搬の旅を見守りました。

3歳児のここがすごい　ー環境との相互作用ー

　泥場特有の石のような塊（粘土質）を発見し、それを集めることに関心が向いたA児は、道具をシャベルからトングにかえました。環境【例えば泥場や道具】がもつ可能性を引き出しながら、いつの間にかA児自身の可能性【例えば好奇心、興味に向かう力、試し考える力、友達とうまく関わる力など】も引き出されていきます。遊びこむ中で、発達に必要な体験をA児自ら導き出し、環境との相互作用の中で育まれていると言えるでしょう。
　言葉が少ない低年齢児の学びは、とても静かな世界で起きています。そばにいる大人が気がつかなければ、無かったことになってしまうかもしれない静かな学びの世界です。そのため、全体を俯瞰しながらも、一人一人の興味関心を丁寧に見取る保育者の存在は欠かせません。自発性に支えられながら、環境の不思議さや事象の仕組みに心を動かし、その子なりに対象と関わり続けていこうとする力は、間違いなくこの幼児期にこそ育みたい資質・能力です。

保育者のここがすごい　ー指導の非単純化ー

　飼育ケースを運び出した時「落としたら危ないよ」という類の指導をなぜ行わなかったのでしょうか。言うまでもなく、子供の安全が第一です。しかし、保育者の指導が『単純化』してしまうほど、目の前の子供が湧かせている思いに近づくことはできないという事実を、私たちは知っておくべきです。本事例の保育者はA児らのことを普段からよく見ていました。その子の好きなこと、興味…。カタツムリの絵本の読み聞かせをした時、人一倍聞き入っているA児の様子も覚えていました。だからこそ、A児の心の中のわくわくが見え、それが保育者としてたまらなく愛おしく、そして、育つ力に心底感動していたに違いありません。飼育ケース運びや掃き掃除、トングを取りに走り、塊集めにどんどん夢中になっていく姿を、共に面白がり、見守り、共感のまなざしを送り続けることができたのは、そのためでしょう。

ちょこっとメモ

　環境とは、物的、空間的、人的、雰囲気や状況など、幼児を取り巻く全てです。例えば、水や砂、紙や箱等、どこにでもあるような素材を、保育者は十分に準備しておく必要があります。目に入るモノは基本的に自由といった構えも重要です。こうした環境による教育は、今後、小学校以降の学びを再考していく上でも大切な視点です。

環境による教育×授業のハラタイムシフト（現責料２０円）

ちょこっとメモ

　一般的に「指導」というと、教師が一方的に知識や技能を与えるものと受け止められがちです。「遊びを通した総合的な指導」という表現でさえ、教師主導の画一的な保育のイメージと混同され、幼児期にふさわしくない教育を生み出している一因にもなっています。幼児教育における指導とは、受容・肯定的に関わりながら一人一人の特性を捉え、その子の育ちを願って環境を創造し、自発的な遊びや生活に対して行う助言や承認、共感等を総称しているものと再確認しましょう。

右の２次元コードからアンケートへの御協力をお願いします

＜発行元＞山形県教育局義務教育課　☎023-630-3416
✉kuraokat@pref.yamagata.jp

※１：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用。※2：５歳児から小学校１年生の２年間。(文部科学省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」）より